「深い学び」の技法20　ver.2.4

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | 技法 | 特徴 |
| 設定 | ①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する | それまでに学んだ既習の知識を活用して、新たな発見や解決につながる学習課題や学習目標、成長目標を設定する。 |
| ②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする | 思いつきや勘だけで考えるのではなく、既習知識やデータに基づいて見通しをもったり、仮説の設定や検証を行ったりする。 |
| ③視点・観点・論点を設定して思考や表現をする | ただ漫然と考えたり対話したりするのではなく、視点・観点・論点を設定して焦点化した思考や判断、表現、評価をする。 |
| ④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する | ただ作って終わり考えて終わりの学習にするのではなく、R-PDCAサイクルを設定して活動や作品の改善を行う。 |
| 思考 | ⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする | 思いつきや勘だけで答えを当てるのではなく、叙述や資料、データに基づいて、それらを引用して自分の考えを形成する。 |
| ⑥複数の資料や観察結果の比較から結論を導く | 複数の資料や観察結果をもとに、それらを比較したり関連づけたりして共通点や相違点を検討し、しっかりとした結論を出す。 |
| ⑦視点の転換や逆思考をして考える | 異なる視点や逆のプロセスから考えたりして、相手の心情や自然現象、社会事象を多面的・多角的に考察し表現する。 |
| ⑧異なる多様な考えを比較して考える | 自分とは異なる多様な考えや意見を参考にして、自分の考えや意見を根拠や論理を明確にして形成したり再定義したりする。 |
| 解決 | ⑨学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする | 思いつきや勘ではなく、学んだ知識や技能を活用したり、それらを組み合わせて活用したりして、考えたり表現したりする。 |
| ⑩友だちと練り合いや練り上げをする | 対話を通して、改善課題を出し合ったり新しいアイデアを生み出したりして、考えや作品、パフォーマンスを練り上げる。 |
| ⑪原因や因果関係、関連性を探る | 自然現象や社会事象などの表面的な特徴だけでなく、その原因や背景、因果関係、文脈、他の現象や事象との関連性を探る。 |
| ⑫学んだ知識・技能を活用して事例研究をする | 一般的な制度やシステムの理解だけでなく、その知識を活用して身近な生活や社会に関する具体的な事例研究を行う。 |
| 表現 | ⑬理由や根拠を示して論理的に説明する | 思いつきで考えるのではなく、理由や根拠を資料やデータを引用して、文章や式、図を組み合わせてわかりやすく説明する。 |
| ⑭学習モデルを活用して思考や表現をする | 思いつきではなく、しっかりとした学習モデル（思考や表現の技、基本型、アイテムなど）に基づいて思考や表現をする。 |
| ⑮自分の言葉で学んだことを整理しまとめる | 本や資料をそのまま要約するのではなく、既有知識を活用して自分なりの言葉や表現を工夫して書いたり話したりする。 |
| ⑯要素的な知識や知見を構造化・モデル化する | 調べたり集めたりした知識や情報、データ、知見などを総合的に組み合わせて、構造化やモデル化、抽象化をして表現する。 |
| 評価 | ⑰既製の資料や作品を批判的に吟味検討する | 既製の資料や作品の正しさや根拠をそのまま受け取るのではなく、自ら他の資料やデータにあたって批判的に検討する。 |
| ⑱身につけた資質・能力をメタ認知し成長につなげる | 学習課題を解決する過程で、どのような資質・能力を身につけたのかをメタ認知して、次の自己成長への展望をもつ。 |
| ⑲学習成果と自己との関わりを振り返る | 学習成果を客観的に示すだけでなく、そこで得た学びの意義や価値を自分の考えや生き方と関連づけて考察し、価値づける。 |
| ⑳学んだことを生かして、次の新しい課題を作る | その授業や単元で学んだことから、次に取り組みたい新しい課題や疑問、問いを考えて、次の学びへとつなげる。 |

※キーワード　観点、活用、多様性、メタ認知、練り上げ、新規性、関連づけ、構造化